

福岡市の救急医療の現状と課題について

1. 現 状

- (1) 初期(一次)救急医療 (診療時間外での外来救急患者への医療)
 - ・急患診療センター(1施設), 急患診療所(5施設), 歯科急患診療所(1施設), 在宅当番医(外科)(日・祝日, 6施設/日)
- (2) 二次救急医療 (入院治療を必要とする重症救急患者への医療)
 - ・救急告示病院(40施設), 二次診療委託機関(福岡市医師会等で確保), 病院群輪番制病院(平日夜間, 2施設/日)
- (3) 三次救急医療 (複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者への医療)
 - ・救命救急センター(済生会福岡総合病院, 福岡大学病院, 九州大学病院)
- (4) ER型救急医療 (一次から三次までの救急患者を一病院で担う自己完結型医療)
 - ・福岡赤十字病院, 福岡和白病院, (福岡徳洲会病院)等

2. 課 題

(1) 初期・二次・三次救急医療の課題

ア 初期(一次)救急医療(急患診療センター, 急患診療所)

- ・受診者は, 緊急性に乏しい軽症から入院又は手術等を要するものまで様々であるため, 相応の診療スタッフや検査機器等設備, 後方病院の確保等が必要。
- ・急患対象診療施設であるにもかかわらず, 誰でも受診できる夜間休日時間外診療施設と曲解されている。

イ 二次救急医療

- ・軽症二次救急のみに対応可能な病院から救命救急センターに匹敵する病院まで混在。
- ・同一病院でも, 診療時間内・時間外で診療体制が大きく異なる。

ウ 三次救急医療

- ・オーバートリアージ(重症判断基準の低下)による患者の集中
- ・運営体制(受入病床や診療スタッフの確保)維持に要する財政的負担

(2) 小児科・産婦人科・精神科救急

ア 小児救急医療

- ・市民の小児科専門医志向, 緊急性のない時間外受診の増加
- ・小児科を併科標榜する内科医の減少と高齢化による急患診療所出務医師の確保困難

イ 産婦人科救急

- ・ 未検診妊婦の飛び込み分娩による受入施設のリスク回避

ウ 精神科救急

- ・ 応急入院指定病院不足
- ・ 福岡県精神科救急医療システムの対象外となっているソフト救急(休日夜間の一次救急等)への対応
- ・ 重篤な身体疾患を合併した精神科救急対象患者への医療提供

(3) 消防法改正に伴う救急搬送における課題

- ・ 救急医療施設の応需機能の把握と公表
- ・ 医療機関と救急隊のさらなる連携

(4) メディカルコントロールと救急隊員の教育

福岡地域メディカルコントロール協議会の検証会議(救急隊員が行う救急業務を医学的観点から検証)への救急医療施設医師の参加による救急隊、医療機関双方のレベルアップ

(5) 市民教育

- ・ 教育現場での救急医療の啓発，医学・医療全般への関心を喚起
- ・ コンビニ受診や救急車の安易な利用抑制に向けた市民教育

(6) かかりつけ医の役割

- ・ 個々の患者に対する自己の症状や治療内容等への正確な認識，データファイルの日常的携行による救急時に向けた教育，指導
- ・ 患者の一次的な電話相談に応じる体制づくり
- ・ 当番制による急患診療センターや急患診療所への出動